



見沼ふれあい農園(秋野菜づくり)

見沼たんぼくらぶ主催の秋野菜づくりは今年で4年目となる。初年度は広大な荒地を畑に戻すことからスタートをしてどうにか予定通りの収穫を得ることが出来た。

9月8日、第一回目の作業は種まきである。一般参加者の応募は当初100名を越すほどであったが、実際には73名の参加となった。

この日は早朝から雨模様で、場所によっては市内でも雨となっていたところもあり、判断が出来ずに不参加となった人も多かったと思われる。

10時30分開会、参加者の中には1時間近くも前に来ていた人もあり、また10時開始と思い込んでいた人も数名いた。暑さのなかで長い時間待っていただくことになった。

埼玉県土地水政策課の方々も出席をされて、代表して榎本主幹からご挨拶があった。話の中で特に印象的であったのは、「見沼たんぼの豊かな自然を後世に伝えていくのが私たちの仕事だと思う」と熱く話されたことである。上に立つ人はこのぐらいのことを照れることなくしっかりと表明されるものである。

今回も家族で参加をされている方々が多く見受けられ、若いお父さんやお母さんが子供たちをよく指導をされている姿が実に微笑ましく、こういう人達が見沼たんぼに関心を持ってくれるということは将来が楽しみである。ライオンズクラブの人達もお揃いのユニホームで団旗？を持っての参加である。気合充分である。

野菜の種類は今までの実績から、大根類は聖護院大根、紅芯大根、総太り青首大根と蕪類ではコカブ、アカカブその他春菊、小松菜、水菜、苗ではブロッコリーとキャベツ、実に多種に渡っている。

これからの作業は9月29日、10月13日、11月3日、11月17日の計4回が予定されていて、11月17日がいわば収穫祭となる。新井会長が「どうぞ皆さん収穫だけでなく途中の作業にもぜひ参加をしてください」と呼びかけていたが、どのぐらいの人が参加をしてくれるか楽しみである。遅れて来た参加者が次のようなことを言っていた。「この企画は現地に来ないと何もわからない」。

若いお父さんやお母さんはネット社会に生まれ育ってきた世代である。インターネットなどは日常的に使いこなしているはずである。従って受け入れる側もこの便利なツールを活用しないということは片手落ちということになる。



ホームページなどを十分に活用して、大勢の人が楽しく作業が続けられるよういまいっそうの配慮が必要である。

(佐々木 明男記)

見沼たんぼくらぶ関係のイベント

見沼ふれあい農園づくり 1号地

— 里芋・八ツ頭・生姜栽培 —

本年度の「見沼ふれあい農園づくり1号地」（緑区大字見沼610・613）は、夏季栽培の里芋・八ツ頭・生姜の三品種を会員限定により実施しました。参加者は総勢19名でした。既に除草・耕運・施肥が施され畑に栽培種の植付けが行われたのは5月1日（雨で1週間延期）です。当日14名の参加により栽培対象の里芋50kg（29畝）・八ツ頭50kg（36畝）・生姜20kg（6畝）の植付けが行われました。それ以降、里芋などが充分成長して手入れが不要となる8月まではほぼ2週間間隔で4回を作業日とする予定でした。しかし、参加者が少人数であったこと、雑草（栽培種以外の草本）が予想以上に繁茂したこと、夏の猛暑のため長時間の作業が困難であったことなどの要因から



ら最終の8月17日までに8回の作業日が必要となりました。

更に、最後の2回の作業日

は暑さを避けるため作業開始を8時30分からにするなど課題も残りました。これに要した延べ人数は88名です。作業は追肥・畝の土寄せ・芽の出具合の悪い所への捕植・耕作地及びその周辺の除草などであります。特に、参加者の手を煩わしたのは生長の早い雑草たちです。栽培種の根元にビッシリと生えているもの、草丈が栽培種を超えるもの、根を張っていて簡単には抜けないもの、株・茎が残ればそこより芽を出すものなど様々です。なお、早めに現場に来た時の大雑把な調べでは雑草はスギナ・スベリヒユ・メヒシバなど75種程ありました。

秋には収穫を迎えます。現在順調な生育であり大量に収穫が見込まれる場合は福祉施設などに寄贈する予定にしています。（若野 忠男記）

第90回見沼塾「見沼たんぼの文化財」

日時 6月30日（土）21名参加

見沼地域の神社・風土・歴史・慣習・文化財等幅広く説明され、非常に興味深く拝聴した。

特に興味を引いたのは、陰暦の6月30日はおつもごりに当たり、無病息災を願う茅の輪くぐりの行事がある事。氷川神社・中山神社・氷川女体神社が等間隔で一直線に並んでいる事。氷川神社は平安期に式内社、室町期に一宮社となった事。元お寺があった場所に氷川神社が設置され、官幣大社となった事。

「薫酒山門に入るを許さず」は、薫とはネギ、ニラ、ニンニク、ノビル、ラッキョウ等の臭物を指す事。女人禁制等の逃げ道として酒をハンニヤトウ、女をダイコク（勝手をあづかる人）と言った事。「みぬま」は、見沼、御沼、美沼、三沼があり、御蔵のクラは岩場の意味で、サクラは狭い岩場に咲いているからである事。地名は地形を表しており、小字を調べると地形が分かる事。加田最新田の歴史や坂東家住宅が当時のものと違っている事。民間信仰として道祖神や庚申塚がある事。弁財天はインドの神で水神・財宝をもたらす神である事。稲荷社の神には、ウカノミタマノカミとダキニテン（ヒンズウ教）があり、共に狐を信仰の対象にしている事。

文化財を指定する場合、古さ、大きさ、同一性などで評価し、補助金を出しているが、一度指定された文化財を破棄するのは大変である事。などである。

これを機会に見沼を色々な面から見つめ直すキッカケとなり、講義して戴いた横田様に感謝申し上げます。また機会があればこの続きを話して戴けたらと考えております。

（長澤 義則記）

見沼たんぼ地域の会員関係イベント

芝浦工業大学環境調査授業 6月23日
見沼たんぼ・自然観察&調査と雑木林体験
システム理工学部2年生選択 23名
NPO法人自然観察さいたまフレンド指導

9時から16時30分まで、終日ハードスケジュールだったが、3班編成で各班2名の自然観察指導員がついたので、学生たちは熱心に学んでくれました。

大宮公園駅…大宮公園（公園の緑地観察）…見沼代用水（三面コンクリート護岸と生き物）…大宮第二公園（樹木のCO₂吸収量調査）…芝川（自然護岸と生き物）…大和田緑地公園特別緑地保全地区（屋敷林の観察—用水・生活排水・芝川の水質検査—雑木林と谷地の観察—下草刈り）…大宮体育館…見沼1丁目の田圃（湿地の生き物観察）…大宮公園駅

一本の木が年間にCO₂を吸収する量を算定したり、田圃で飛び跳ねるトウキョウダルマガエルやアマガエルを観察したり、斜面林で鎌を使ったアズマネザサ刈りに汗を流した



ことなどが楽しかったと学生たちは言います。中口 毅博教授は、「ふだんは集中力のない学生たちが真剣に自然と向き合ったことは予想外です。」と言われました。

どれもこれも初体験の校外学習で、自然の魅力に取りつかれたようです。

さいたま市という都会のど真ん中に私たちが残して保全しているみどり豊かな斜面林に学生たちは感動し、これからも支援したいと言います。
(小野 達二記)

さいたま市立大宮東小学校総合学習
未来に残そう！ふるさとの自然 6月28日
4年3学級113名・先生・父母で6班編成
NPO法人自然観察さいたまフレンド指導

大宮第二公園 8:24…見沼代用水西縁…見沼1丁目田圃…芝川…大宮体育館…大和田緑地公園特別緑地保全地区…芝川左岸第7調節池…大宮第二公園 11時40分

児童の礼状を原文のまま紹介しましょう。

「小野先生へ この間の6月28日（木）には、いろいろ教えていただき、ありがとうございました。

わたしが心に残っている生き物は『とうきょうダルマガエル』です。かごに入れたら、かごのふたをあたまでおして外に出てきてしまったのがおもしろくて、強く心にのこりました。このあたりの絶滅

危惧種の『とうきょうダルマガエル』や『イチョウウキゴケ』、『ハンゲショウ』それに『ミ

ゾウジュ』などが見れて、本当にうれしかったです。それに『クワの実』や『ヤマモモの実』を食べた時、あまずっぽくておいしかったです。

とてもいいべんきょうになりました。

本当にありがとうございました。

4年1組 須釜 彩芽



この他、心に残ったことを2、3の児童に聞いたところ、次のような返事が返ってきました。

「田圃のあぜ道を歩いて楽しかった。」

「森の空気がとても美味しかったことです。」

「初めて、ヒバリが鳴いて飛んだのを見た。」

(小野 達二記)

見沼たんぼ水彩スケッチ紀行

絵と解説 八木一郎



「深作多目的遊水池」

深作多目的遊水池は、見沼区北部 深作川の右岸に位置する。画面 右方に広がる地域は見沼代用水東縁から灌漑用水を導いて開発された豊かな水田地帯。波打つ水面を囲む葦は強い冬風に懸命に耐えている感じで、左方に建つ近代的な春の団地の景観と対照的。



「大戸地藏堂」 (円能寺の仏堂)

為永翁は、見沼干拓と並行して見沼代用水西縁の北袋から分水して高沼（鴻沼とも）用水をつくり、与野大戸地区を肥沃なたんぼにかえた。住宅地になった現在でも、用水を囲む東縁・西縁の静かな流れが当時の面影を残している。

鴻沼には鴛鴦（えんおう・オシドリ）の物語がつたわっており、強い絆で結ばれた雌雄の鳥を吊って「正観音菩薩」をお祀りしたのが円能寺。明治4年 廃寺になったが、円能寺ゆかりの「大戸地藏堂」によって過去帳などが引き継がれており、「正観音菩薩」は円能寺御子孫の宮田武治家で大切に安置されている。



「秋漸く深まる」(旧坂東家住宅)

旧坂東家の庭には、甘がき・渋柿の2本の「柿の木」があり、画面のものは 渋柿。

秋が深くなると、澄んだ碧空に柿の色が映えて美しく、絵や写真の同好者が多く訪れる。冬の「渋柿つるし干し」もまた懐かしい風景である。

見沼たんぼくらぶ会員作品展

作者 渡辺 公子

冬支度（見沼くらしっく館の東隣にて）

大都市さいたま市の中で、今でもこの様な光景に巡り合える幸せ。“スローフード”の食生活をもてはやされる昨今。昔の人達は、収穫した物を干したり漬けたり、全てを大切に保存し、食すという“スローフード”な食生活をとうの昔からしていたのです。



見沼たんぼ探訪記

見沼代用水西縁の7月を歩く

梅雨時の合間をみて見沼代用水西縁を7月初旬の午後、ウォーキングする。

木崎地区に入ると遊歩道と車道との間の法面が、オレンジ色の濃い花を咲かせ見事な花園になっている。しばらく間目を楽しませてくれる花園で、幾千、幾万もの花が咲き競い、素晴らしい自然庭園となっている。

花は大人の握り拳大の花で、ユリの花に似ている。多くは八重咲きである処から、「ヤブカンゾウ」と呼ばれているものである。注意して近付くと、同じ様に見えるが八重でない花もあり、これはノカンゾウと呼ばれているものだ。

この地区に入ると、私自身まるでカンゾウの花に包まれてしまう様な気になってしまい、身も心も

爽快な気分だ。これほど豪快にカンゾウの花を楽しめる自然庭園は、他に



はあるまい。ゆっくり歩きながらカンゾウを鑑賞する人、三脚にカメラをセットして咲き具合を熱心に撮影する人などが目に付く。「NPO法人・カンゾウを育てる会」の皆様が、周辺の自治会等の皆様と協力し合いながら保護している事もあり、このような素晴らしい花園になったのであろう。

カンゾウの花は1日で咲き終わるものの次から次に咲いてくるという。しばらく立ち止まってカンゾウに触れると、花の一つ一つに勢いがあり、橙赤色の色がまぶしいほどに目に入ってくる。西縁を賑わすこの自然庭園の花の美しさに釘止めされた状態になり、立ち去る事を忘れてしまうほどであった。

(召田 紀雄記)

カヌーツアーサポーター養成講座

8月半ば、夏の盛りの容赦ない陽射しの中で、ひととき涼しげに代用水東縁諏訪橋付近に浮かぶカヌー。9月に行なわれるNPO法人地域人ネットワーク主催の親子カヌーツアーのためのサポーター養成講座があると聞いて見学させていただきました。

この日は3回目で参加受講者は女性3名、男性2名の計5名に講師4名という豪華版。準備体操のあと、まずはカヌーには乗らずに櫂だけを手に水に入って、立ったままパドリングの練習。柄の両端にブレードのある櫂一本を左右に操って漕ぐ感触を掴みます。

上から見てみると深そうに見えましたが、水は膝のあたりまで。流れを利用して水面を掃くように、というアドバイスが聞こえますが、水を的確に捉えるのはなかなか難しそうです。続いて転覆した時の対処法。水深は浅いとはいえ、やはりきちんと備えておくことは基本です。

考えてみたら、かつては水運にも利用されてきた代用水。雑排水が入らず、瀬のないゆるやかな流れは初心者にもうってつけ。今回は諏訪橋から五斗蒔橋付近まで下って、再び遡ってきたようですが、流れを遡るのはなかなか大変で、みなさん苦労されたとのことでした。

その間拾ったごみがカヌー一艘分になったそうです。ごみの問題は、見沼に限りませんが常に大きな課題です。

このあと写真のように上り下りの練習をしてから、いざ出発！枝々の影をくぐりながら川面を滑っていく、とりどりのカヌーを見送りました。

(高橋 いずみ記)



見沼たんぼの仲間たちNo.23

NPO 法人カンゾウを育てる会とは

見沼代用水西縁の土手で、ヤブカンゾウ（勿忘草）などを主に、かつて見沼たんぼに自生していた植物の再生・保護・育成をしています。同時に、良好な環境の維持再生を目指した街づくり、子供の健全育成を目的とした活動を行っています。

ヤブカンゾウとは

ヤブカンゾウは、日光の山地に群生するニッコウキスゲや、佐渡島の海辺に群生するトビシマカンゾウと同じユリ科ワスレグサ属の植物です。

見沼たんぼでは、6月下旬から7月上旬にかけて、大きなユリに似た橙赤色の八重咲きの花を咲かせます。1本の茎についた蕾は1日で咲き終わり、翌日には新しい花を次々に咲かせ続けます。



活動の経緯

平成6年、浦和区大原在住の島崎市太郎を中心とする有志は、見沼代用水西縁の土手に自生するヤブカンゾウの保全育成を始めました。

数名の、手刈りで始めた活動は、当初の数10mから年ごとに拡大し、今では正樹院橋から山崎橋に至る見沼代用水西縁約1.5kmに、ヤブカンゾウが咲くようになりました。

平成17年、この活動の永続的な継続を願い、NPO 法人カンゾウを育てる会を設立しました。設立に際し、島崎市太郎は自らの財産の一部を活動資金として当会に寄贈しました。

主な活動

- ①見沼代用水土手の日常的な雑草刈りやゴミ拾いのほか、春と秋には地域の人たちと共に一斉草刈イベントをします。
- ②トンボ池の施工と管理。生活協同組合の助成を受け、代用水西縁の湧水を利用したトンボ池を作りました。今、ザリガニや小魚と戯れる子供たちの水辺の遊び場として賑わっています。
- ③代用水縁の桜見物に訪れる人々の安全を守る為、平成18年から、観桜時の「歩行者天国」を実施、近隣自治会の協力の下、平成21年に浦和西高下の「ずまや」から足袋屋橋までを自動車の立入を規制し遊歩道にすることができました。同時に県による遊歩道部分の金網フェンスの木柵化、水資源機構による大原2丁目から北袋に至る約1.5キロを木柵化することができました。
- ④平成22年、ゲンジホテルの里を再生するため、さいたま市と協働事業でホテル池2面造成。水質を管理し餌となるカワニナを育て、平成24年3月、ゲンジホテルの幼虫を投入したところ、浦和区では40年ぶりにボタルが光を放ちながら用水縁を飛び交いました。
- ⑤浦和西高斜面林友の会など近隣友好団体と協働して、年4回の「芝川&見沼たんぼ清掃活動」をしています。
- ⑥ヤブカンゾウの自生地を広げる他、以前見沼に自生していた希少植物の再生に取り組んでいます。ヤブカンゾウから始めた保護自生植物は絶滅危惧種を含め60数種に及んでいます。

表彰

「さいたま市景観協力賞」や「景観協力賞」など多くの表彰を受けています。

平成22年には国土交通省から「みどりの愛護功労者賞」、環境省から「環境保全功労者賞」、さいたま市福祉協議会から「表彰状」を戴きました。

NPO法人 カンゾウを育てる会

問合せ先 室 和成

kkmr4827s@nifty.com

<http://members3.jcom.home.ne.jp/yabuk>

見沼たんぼの農家さんのお話

「HANAMICHI」小泉安弘さん

夏の盛りの代用水東縁井橋近くの昼下がり、出荷のピークを過ぎて一段落した敷地内に立ち並ぶ大きなハウスの前に立ち止まると、ほのかな花の香りがしてきました。

小泉安弘さんの家は元々農家で、安弘さんは農



業大学校でまだガーデニングブームの名残で勢いがあつた花栽培を専攻。2年間、志

木の花農家で研修を受けた後に親とは別に独立し12~3年、今では正社員2人、パートさん20人と約2千坪のハウスで主にカラー、チューリップ、カラジウムなど球根ものの鉢植えを栽培・出荷する有限会社「HANAMICHI」の新進の経営者です。

毎年、球根の買い付けにヨーロッパやタイを訪れて現地の花事情を観察。そもそもヨーロッパと日本では花市場の規模がまるで違うそうです。日本ではホームセンターに併設された花売り場が主な販売場所で、これは多角経営だから成り立つけれど、日本で独自に花だけで経営するのは非常に困難だということです。小泉さんは日本の生活文化の中にギフトやインテリアとしての花を定着できないかと試行を重ねています。

今の世の中の便利さを求める傾向は鉢物のタイプにも表れていて、それは育てる過程を楽しむというより購入する時点で完成していること。つまりすぐに飾って楽しめて、枯れたらそれで終わり。そこで今、小泉さんはもともと日本にあった「寄せ植え文化」を基に、すぐに飾れる「玄関に

置く寄せ植え」というコンセプトで生産、それを提案しています。

生産者として生き残るには「いいものを真面目につくる」だけ。それはまた、市場任せにしないで自分の生産物を直接持ち込み、最後まで追跡して自分で反応を確かめる、ということでもある。今のシステムではクレームが生産者に届きにくいので、生産物に対する悪い点を積極的に聞こうとすることが大事だ、と小泉さんは言います。

見沼は商圏が近いので直売などにはすごくいい場所だと思うけれど、自分は自社ブランドを立ち上げたり、ネット販売などをするより、しっかりした販売店と組んで「影武者」として自分の名前は表に出さずに、息長く生産者として生産に徹したい、と話す小泉さん。かつては北から南まで全国40社ほどと取り引きしていたそうですが、取引先が多いと手間も大変で、今は10社ほどに絞っているそうです。



30代はがむしゃらに、ただがむしゃらに失敗を重ねてやってみたい、と語られていたそのままに、

「今」という立ち位置からまっすぐ前だけを見ておられる姿が、すっきりと立ち上がるカラーの形と重なって心に残りました。

(高橋 いずみ記)

HANAMICHI : <http://www.i-hanamichi.com>
さいたま市見沼区膝子 300 Tel. 048-683-0876

見沼たんぼくらのイベント案内

会員の主宰するイベント情報

第51回自然観察ハイキング

見沼の自然と史跡を訪ねて

一鷲神社～国昌寺 方面

日時：10月6日（土）9時30分
～12時30分

集合・解散地：見沼自然公園管理棟前
道程：約6km

申込み：当日、集合地で9時から受付
交通：大宮駅東口からバス⑦浦和学園高校・浦和美園駅・さいたま東営業所各行き「締切橋」下車、南側（乗車時間約20分）

第4回見沼たんぼウォーキング

日時：10月27日（土）9時～12時30分
集合地：JRさいたま新都心駅改札口向側
解散地：合併記念見沼公園 道程：約5km
（公園隣接の自治医大から大宮駅東口行きバス）
申込み：当日、集合地で8時30分から受付

第3回見沼たんぼ清掃・ボランティア

日時：11月11日（日）10時～12時
集合・解散地：見沼グリーンセンター正門
コース：芝川・神明下橋～石橋 道程：約4km
申込み：当日、集合地で9時30分から受付
交通：JR宇都宮線土呂駅東口から徒歩7分

第91回見沼塾『見沼の自然—野鳥観察』

日時：12月9日（日）9時～12時
集合地：東武野田線大宮公園駅前
申込み：当日、集合地で8時30分から受付

第5回斜面林の体験学習

『保全作業—落葉かき』

日時：12月16日（日）9時30分～12時
集合地：さいたま市立大宮体育館正門
申込み：当日、集合地で9時から受付
持物：作業手袋（汚れてもよい服装）
交通：東武野田線大和田駅から徒歩15分

見沼ぶらり・おもしろ自然観察

日時：10月7日（日）9時～12時
集合・解散地：大宮第二公園南管理棟
主催：NPO法人自然観察さいたまフレンド
■テーマ別に自然観察指導員がガイドする
①名残の蝶を探して
②秋の野の花を楽しもう
③野草の実を調べよう
④木や草の実を見付けよう
申込み：当日、集合地で8時30分から受付
参加費：¥500（中学生以下は無料）
交通：大宮駅東口からバス⑧「芝川」下車、北側（乗車時間約10分）

見沼たんぼのワラ塚—フナノ

展示期間：10月27日～1月25日
加田屋新田 新加田屋たんぼ
交通：大宮駅東口からバス⑦「三崎台」下車
製作者：NPO法人見沼ファーム21

お知らせ

「見沼たんぼくらぶ」へのお誘い

「見沼たんぼくらぶ」をお友達に紹介して下さい！「見沼たんぼ」を愛する仲間を増やしましょう！
個人・団体・法人とも1口¥1000円です。

みぬま通信第52号

発行日 平成24年月10月1日
発行所 見沼たんぼくらぶ
〒337-0053 さいたま市見沼区大和田町
1-2124-3 小野方
TEL・FAX (048) 683-1764
E-mail t.ono@axel.ocn.ne.jp
URL <http://minumatanbo.web.fc2.com/>

© 2012 Minuma Tuusin